

普及センターだより

耕耳苑

宮古農業改良普及センター

TEL : 0193-64-2220

FAX : 0193-64-5631

岩泉普及サブセンター

TEL : 0194-22-3115

FAX : 0194-22-2806

いわてアグリベンチャーネット <https://i-agri.net/>

台風対策

農作物被害を避けるための防止対策を適切に行いましょう
常に人命第一で行動してください

台風が発生するシーズンとなりました。これから秋にかけて台風が接近することも予想されますので、日頃から、対策を意識しておきましょう。

台風が接近している最中は、人命第一の観点から、圃場の見回りについては、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が治まるまでは行わないでください。

大雨等が治まった後の見回りにおいても、増水した水路、その他の危険な場所には近づかず、足下等、圃場周辺の安全に十分に注意して、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行ってください。

事前の対策

◎ 水 稲

排水路等にゴミなどが詰まっていると浸水や冠水しやすくなりますので、土地改良区等と連携して取り除きましょう。

浸水や冠水が予想される水田では、予め水尻を解放し、排水を促しましょう。

◎ 大豆・畑作物

- (1) 圃場表面の排水を促進するため、周囲溝や排水溝などを点検・補修し速やかに排水できるようにしましょう。
- (2) 圃場やハウスへの水の進入を防止するため、周囲にあらかじめ排水溝を設けておきます。増水によって、いつも水が溢れる場所は土嚢等（肥料袋に土を入れたものでも代用可能）で補強します。

◎ 野菜・花き等

- (1) 明きょ等を設置し、排水対策を講じましょう。
- (2) 露地圃場やハウス周辺に暴風ネットを設置している場合は、緩んでいるワイヤーや針金を張りなおし、ネットの破れは補修しましょう。
- (3) パイプハウスは、ハウスバンド（マイカー線）の切れや緩みを点検し、ビニールの破損は補修し、筋かいなどの補強を実施して強風に備えます。

- (4) 風が強い場合は、施設を閉めきることとなりますが、循環扇等で空気を攪拌し、湿度上昇による病害の発生の予防に努めましょう。
- (5) 露地圃場では、畦の両端や所々を補強し、支柱や株の倒伏を防ぎましょう。

◎ **りんご等果樹**

- (1) 収穫が近い品種は、果実品質と散布した農薬の安全使用基準（収穫前日数）を確認し、収穫が可能なものは、農作業安全に注意しながら、速やかに収穫を進めましょう。
- (2) 防風ネットを設置している園地では、ネットの張りを点検し、緩んでいるワイヤーの張り直し、破れたネットの張替えをして準備します。
- (3) わい性樹は強風で倒伏することがあるので、主幹を支柱に2～3ヵ所結束します。長大な側枝を持つ樹形はバランスを崩しやすいので、丈夫な支柱で支え固定します。
- (4) 高接ぎ樹では大切な更新枝を保護するよう添え木して、幼木も丈夫な支柱を立てておきます。

◎ **畜産**

- (1) 飼料作物を作付けしている圃場では、排水溝の点検を行い排水を促します。特にとうもろこしは湿害に弱いので、排水対策を徹底します。
- (2) 停電により、搾乳が出来ない場合を予想して、発電機の準備や使用方法を確認しておきましょう。また、可能であれば貯水タンクに水を確保しておきます。
- (3) 畜舎周辺を点検し、必要であれば修繕や補強を行います。畜舎内に雨水が入らないよう排水溝の点検を行います。

事後の対策

- (1) 浸水、冠水した場合は速やかに排水するよう努めてください。圃場に溜まった水はただちに排水し、長時間滞水しないようにします。
- (2) 台風通過後は、茎葉の損傷等により病気にかかりやすくなっていますので、品目ごとの農薬の使用基準に従い殺菌剤を散布し、病害の発生を防止します。茎葉に泥土等が付着した場合は、動力噴霧機により水をかけて洗い流した後、殺菌剤を散布します。
- (3) 株が倒伏、傾倒した場合は風が弱まったら直ちに株を立て起こし、支柱やネットを修復します。

参考：農作物技術情報 号外台風対策（編集：農林水産部農業普及技術課農業革新支援担当）

秋の農作業安全確認運動

9月1日（日）から10月31日（木）まで、「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」を重点推進テーマに、秋の農作業安全確認運動が実施されます。農作業事故防止に努めましょう。

◎残暑も続きます。引き続き熱中症に注意して作業しましょう。

◎日暮が早まりますので、焦らず計画的に作業しましょう。 【担当：砂子田】